令和５年度第４回

小金井市環境審議会会議録

令和５年度第４回小金井市環境審議会会議録

１　開催日　令和６年３月２１日（木）

２　時　間　午前９時３０分から午前１１時３２分まで

３　場　所　市役所第二庁舎８階８０１会議室

４　議　事　(1) 小金井市施設における自動販売機に関する方針について

(2) （仮称）小金井市気候市民会議について

(3) その他

５　報告事項　(1) 小金井市環境報告書（令和４年度版）について

(2) 令和６年度小金井市住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金について

(3) 気候変動等に関する意識調査について

(4) その他

６　その他

７　次回審議会の日程について

８　出席者　(1) 審議会委員

会　長　池上　貴志

副会長　椿　真智子

委　員　羽田野　勉、中里　成子

田頭　祐子、橋本　　修

(2) 事務局員

環境部長　　柿﨑　健一

環境政策課長　　岩佐健一郎

環境係長　　高野　修平

環境係専任主査　荻原　　博

環境係主事　　石堂　裕賀

環境係　　阪本　晴子

８　傍聴者　１名

令和５年度第４回小金井市環境審議会会議録

池上会長　　令和５年度第４回小金井市環境審議会を開催させていただきます。

まず、事務局から事務連絡と本日の配付資料等の確認をお願いいたします。

高野係長　　本日は、年度末のお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

近藤委員、髙田委員、高木委員、土屋委員から欠席との御連絡を受けています。

最初に事務連絡としまして、御発言の際の注意事項についてです。マスクを着用されている場合、会議録の作成の際にＩＣレコーダーの録音内容が非常に聞きづらくなってしまいます。つきましては、質疑応答等、御発言の際は、御自身のお名前を先におっしゃった上での御発言に御協力をお願いします。また、できる限り短時間で有意義な審議会となるよう努めてまいりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

続いて、配付資料の確認についてです。本日は、次第と資料１から６を机上に配付しています。まず、資料１、小金井市施設における自動販売機に関する方針です。資料２、（仮称）小金井市気候市民会議についてというものです。これが左上ホチキス留めしているもの、資料３としまして、意見・提案シート、令和５年１０月１７日実施分と１２月２２日実施分になるもの、これは２枚になっています。資料４としまして、小金井市環境報告書（令和４年度版）の冊子になります。資料５としまして、令和６年度住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金についてというものでございます。最後、資料６としまして、気候変動等に関する意識調査（中間報告）についての資料です。皆様、過不足はありませんでしょうか。

前回会議の会議録につきましては、紙資源削減の観点等から電子データでのみの御提供とさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

池上会長　　ありがとうございました。特に不足分はないでしょうか。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。

まず、２の議題（１）小金井市施設における自動販売機に関する方針についてということで、まず、事務局から説明をお願いいたします。

高野係長　　それでは、小金井市施設における自動販売機に関する方針につきまして、資料１を御覧ください。

こちらの方針につきまして、今年度の第１回の環境審議会から御議論いただきました。前回審議会時にお示しさせていただきました方針の案から、前回の審議会での御議論等を踏まえまして、正副の会長と協議し一部修正させていただいた旨、委員の皆様にもメールで共有させていただきました。修正した内容につきましては、資料１の２、具体的対応の（１）の１か所のみとなります。前回審議会の案の段階では、「ゼロカーボン、太陽光発電等の機能を有するなど、環境に配慮した機種を選定すること」としていましたが、今回、「ゼロカーボンに向けて省エネ、太陽光発電等の機能を有するなど、環境に配慮した機種を選定すること」と修正しています。

修正理由としましては、太陽光発電も、ゼロカーボンに向けた機能の一つであり、ゼロカーボンと太陽光発電が並列していることに違和感があるとの御指摘を踏まえ、修正したものとなってございます。

本方針につきましては、２月に庁内組織で構成されます小金井市環境基本計画推進本部、３月５日に開催されました市議会定例会建設環境委員会に報告しています。予定どおり令和６年４月１日施行として運用を開始したいと考えております。また、方針ができて以降どう変わっていったのかということが分かるようにという意味も含めまして、現在の自動販売機の対応状況について、どういった種類の飲料を販売しているのか、どういった種類のもので販売しているのか、どういった機能が備わっているのか等の現況調査を実施予定です。

こちらの審議会でも何度か説明させていただいておりますが、運用後すぐに劇的に変化があるという性質の方針ではありませんので、今後も、本審議会に情報提供をさせていただきまして、御協議等させていただければと考えております。

今回は方針の内容というよりも、前回審議会まででも御議論いただ

いておりました方針の運用について、御意見等がありましたらいただきたいと考えております。

以上です。よろしくお願いいたします。

池上会長　ありがとうございました。

それでは、事務局からの説明に対して御質問等ありますでしょうか。

田頭委員、お願いします。

田頭委員　今回、この設置方針については、十分この審議会でも議論してきたと思っています。その上で、変更点なども今日、説明していただきましたので、質問というよりは、今日は意見だけにさせていただきたいと思います。

やはり具体的対応のところで、「ゼロカーボンに向けて省エネ」というふうに少し前回からここが変わったということだったんですけれども、やはり市がゼロカーボンに向けた方針を持っているということ、気候非常事態宣言を発している市なのでというところ、それで少し強くなったかなと、前回の書きぶりよりは強くなったかなと思っていますので、ここは歓迎したいと思っています。

それで、今後の運用についてなんですけれども、ここでは具体的な数値目標など分からないけれども、今後は、第２次小金井市温暖化対策地域推進計画の改定のところで、数値などの数値目標を含めた具体的な対応はそこで書いていくというようなことが、前回の審議会の中でも出ていたと思います。部局の説明でもあったと思いますので、やはり私は、自販機自体から排出されるCO_2が、２００５年度比で現状は６０％以上削減されているというようなことも出ているわけですから、今後は、自販機本体でもCO_2がどんなふうに排出されることが軽減され、また、自販機本体でもCO_2を２０％吸収する機能を持たせた機種も開発されているというようなことも、見たりしています。こうしたことから、やはり今後、市内の自販機から排出されるCO_2の削減についても、しっかりと把握するだけではなくて、やはり市内全体のCO_2の削減目標の中に、自販機から排出されるCO_2というものもきちんと分かるような、明記されるような、そういった地球温暖化対策が次の計画改定で位置づけられることを希望しますということで、意見を述べさせていただいておきます。

以上です。

池上会長　ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

橋本委員、お願いします。

橋本委員　今、次の計画改定という話がでました。これは今までの話合いの中で見直す時期とか、そういうことについては、特に文章的には明記しないで、何かの折に、こういう改定を進める方向でとかいう、そういうような、意見が出たときに逐次やっていくという、そういう認識でよろしいでしょうか。

高野係長　今の改定の見直しというのは、第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画のということでよろしいでしょうか。

橋本委員　はい。

高野係長　そちらにつきましては、次の議題で挙げる予定の（仮称）小金井市気候市民会議についてで、説明いたします。

橋本委員　分かりました。

岩佐課長　すみません、補足です。

先ほど第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画ということで、小金井市域の地球温暖化の計画を位置づけているものと、あと、第４期地球温暖化対策実行計画（市役所版）というものがございまして、どちらかというと、市の施設から出るCO_2というのはこちらのほうで位置づけて、計画数値が載っていますので、自動販売機の関係ですと、どちらかというとこちらのほうに位置づけていくものかなということで考えておりますので、改定の際に、ここら辺の自動販売機はどうなっているかというところも併せて見ていくことになるかなということでは考えてございます。

橋本委員　ありがとうございます。

池上会長　ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

これまで何回か議論をしてきましたけれども、自動販売機の台数を減らすということに関して、私からは、少し消極的な意見を述べさせてもらったかなと思っています。それは、小金井市の施設の自動販売機をどうにかしたということが市全体のエネルギー消費量の削減につ

ながるかどうかというところが一番大事なところで、自動販売機がなぜ設置されるかというところは、ニーズがあるから設置されると。小金井市が設置しなかったらその近辺に民間企業が自動販売機を入れると思います。そういうことでは、決して自動販売機を小金井市が減らしたことにそれほど大きな意味がなくなってしまうというところが一番大きな課題と思っております。そういう意味では、小金井市がただ減らしていくわけではなくて、周辺に民間企業が自由に入れられるのと比べると、小金井市が入れるときには、ある程度環境に制約がある機種を入れてもらうというほうが効果が高いということで、この方針はすごくいいものだなと感じております。

市として、全体の自動販売機、自動販売機のエネルギー消費量だけを多分追いかけても市域、全体に占める割合がすごく小さく、削減効果ということは見えるところではないかなとは思いますけども、せっかくこういう機会で議論したことですので、小金井市の、市が設置したものでないものも含めて、現状を把握したり、市民と協働で市全体の、民間も含めて自動販売機を減らす方向、ライフスタイルの変換やマイボトルを持ち歩くような習慣づけ、そういった方向に、小金井市の自動販売機に限らず、展開していくことが大事かなと思います。もう一つは、特に市の自動販売機で公共性が高いということで、災害時、この前の震災が能登でありましたけれども、そのとき自販機が壊されて、それが問題になったということもありましたけども、そういったところをどう活用できるのかということをあらかじめ市民に伝えるということも大事かなと思います。今回も災害時の機能が、具体的対応例（２）に出てきておりますけれども、そういったことをあらかじめ情報発信、どこにあって、どういう使い方ができるのかということを発信しておくことはすごく大事かなと思いますので、ぜひその辺はよろしくお願いしたいと思います。

ほかにございませんでしょうか。ありがとうございました。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

続いて、議題２の（２）（仮称）小金井市気候市民会議についてということで、資料２について事務局から説明お願いいたします。

高野係長　　それでは、資料２を御覧ください。

前々回、第２回審議会におきまして、他自治体でも動きが広がっております気候市民会議を実施したい旨、概要を説明させていただきました。今回は、前々回お諮りした際に委員の皆様から御協議いただいた内容を踏まえまして、スキームを一部変更しておりますので、再度御審議いただければと思います。また、まだ概要の段階であるため、詳細につきましては、次回以降の令和６年度の本審議会でお諮りしたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

まず、１ページ、前回お諮りした際は、令和１３年度に策定予定の第３次小金井市環境基本計画、第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画、こちらの策定に向けて提言をいただきたいということで、令和１０年度に気候市民会議を発足させたいという形でお諮りをさせていただいておりました。

委員の皆様から、開催時期について、気候非常事態宣言等を発出しているというところを鑑みた場合、なかなかそれだと少し悠長なのではないかという御意見をいただいております。そういったことも踏まえまして、再度スキームを変更させていただきまして、検討させていただきまして、令和１０年度に開始の前に、令和７年度、令和７年度なので再来年度に、一度、気候市民会議を実施するというスキームにしましたので、御確認いただければと思います。

２ページを御覧ください。

令和７年度に気候市民会議を発足させるに当たり、令和６年度に無作為抽出で、例えば環境フォーラム、野川環境フィールドワーク、そういった環境行事に参加していただけるような無作為抽出枠を設けまして、募集枠を設けたいと考えております。

この無作為抽出枠は、おおむね若者世代、１８歳から３９歳の世代を中心に、令和７年度の気候市民会議の発足の前に令和６年度の環境行事に参加していただくことで環境に触れていただく、そういった機会を設けたいと考えております。令和６年度に、環境フォーラムであったり野川環境フィールドワーク、そういった環境啓発系の事業に参加することで、そこで初めて、環境に今まで興味なかった方たちもいらっしゃると思うんですけれども、そこで御意見、例えば市民会議での話合いのテーマ、そういったものを検討していただく場を１年間か

けて設けたいというのが今回の狙いとなります。

次に、３ページを御覧ください。

こちらは気候市民会議の立ち上げの目的でございます。目的は前回御説明した内容と重複いたしますが、現計画、地球温暖化対策地域推進計画、環境基本計画への反映のための御提言をいただきたいということに関しては、変わりはありません。これにつきましては、他自治体も同じような形で行っておりますので、他自治体と相違はないと考えております。

気候危機の状況を回避するために温室効果ガスの削減に取り組まなければいけないというのは、市の職員だけではなくて、地球で生活する一人一人が皆同じことであると、こちらを意識していただきたいというところが目的の一つになっております。地球沸騰化時代の到来とも言われておりますので、小金井市気候非常事態宣言にも記載しております、自ら積極的に取り組もうとする気持ち、姿勢の醸成であったり、自分事として捉えること、人間の行動が温暖化させてきた事実の認識というところも一人一人に、多くの方に持っていただきたいということ、そして、最終的に小金井市としても、２０５０年までにゼロカーボンシティの実現というところを目標としておりますので、そのために、一人一人から始める意識改革というものをしていきたいと考えているところです。

そういったところで市民の皆様の環境意識の底上げというところをするために、今まで気候変動等に高い意識がある方もいらっしゃいますが、あまり高くない人という方もいらっしゃいます。そういった方に向けて、これからの時代を担う若者世代、１８歳から３９歳の方の意識改革、それだけではないのですが、そういった方たちに向けて、まず、環境保全であったり、気候変動等に興味・関心を持ってもらうということが重要だと考えております。

先ほど説明しました、市で行っている環境事業、環境フォーラムであったり環境フィールドワークであったり環境啓発、環境学習館で行っている事業、そういったものに参加していただくことで、まず、市の環境行政を知ってもらうということが大事かなと考えているところです。

次に、４ページを御覧ください。

先ほどから説明しましたとおり無作為抽出、こちらは２００人というものを来年度予定しております。こちらで参加を希望された１０人から２０人程度、おおむね５％から１０％程度の方が興味を持っていただけるのではないかと考えておりまして、２００人のうち１０人から２０人、５％から１０％程度というのが、ほかの一部の審議会で、例えば市民参加推進会議等で行われている市民公募枠というものの中に、一般の募集とは別に無作為抽出枠というものを設けて応募している審議会もあります。そういった審議会で申込みがあるのが５から１０％ということですので、大体このぐらいの方が参加していただけるのかなというのを想定して、２００人の方に案内を通知したいと考えております。一般の参加者とは別に、プッシュ型でフォーラム等がいろいろありますよという案内を行いまして、環境行事に参加していただいて、先ほど来説明させていただいております、令和７年度で実施する気候市民会議での政策提言等のイメージを膨らませていただきたいと考えております。環境行事というのは、市で行っている事業のことになりますので、説明は割愛させていただきます。

続きまして、５ページを御覧ください。

こちらが令和７年度の気候市民会議についてです。こちらの気候市民会議の参加者につきましては、令和６年度に無作為抽出で選ばれた市民の方で、引き続き気候市民会議にも参加していただきたいということで手を挙げていただいた方、また、こちらの方の人数にもよるところではあるんですけれども、別枠で、公募市民の応募も考えております。なので、無作為抽出で選ばれた方だけではなくて、自分もこの気候市民会議に参加したいというような意思がある方も中にいらっしゃると思いますので、そういった方の参加を阻害するものにはしてはいけないかなという考えもありますので、無作為抽出の枠と公募の枠も設けることも検討しております。

主な審議内容としましては、第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画の見直しに向けて、市民としての取組であったり市への政策への提言などをしていただきたいと考えております。回数としては３回程度を想定しておりまして、この提言を踏まえまして、地域推進計画

の改定検討委員会というものを令和７年度に立ち上げて、こちらで６回程度を想定しているんですけども、この提言を受けて、計画の見直し、改定等、主な内容としましては、審議会等でも御議論いただいております、温室効果ガス排出量の目標数値の設定等について御議論いただき、計画を改定できればと考えております。こちらは予算が伴うものになりますので、確定的なところではないのですけれども、そちらの改定版、見直し版につきましては、令和８年３月に改定しまして、令和８年４月、令和８年度当初から施行と考えております。

次に、６ページを御覧ください。

こちらが前回までの審議会でお諮りしておりました、もともと令和１０年度に気候市民会議を立ち上げたいというものになります。なので、他市と違うところになりますと、本市では、２回市気候民会議を立ち上げたいなと考えております。令和１０年度に開催する気候市民会議につきましては、令和８年度と令和９年度に再度、令和６年度と同じようなスキームで無作為抽出を実施、プッシュ型で案内を行いまして、環境行事に参加していただくことで、令和１０年度に実施する気候市民会議での政策提言のイメージを膨らませていただくということを想定しています。令和８年度、９年度に無作為抽出で選ばれた市民で、また引き続き気候市民会議に参加していきたいということで手を挙げていただいた方と、令和７年度にも参加していただいた方と、あと検討にはなりますが、公募市民で構成されたもので、令和１０年度には気候市民会議を立ち上げたいと考えております。従いまして、令和１０年度の気候市民会議につきましては、再度行った無作為抽出の方々と、あと令和７年度に一度気候市民会議に参加されていた方等で構成できればとい考えております。

こちらにつきましては、次期の小金井市環境基本計画策定等に向けて提言をいただく予定で、他市では、大体年度で５回程度行ってございますので、本市につきましても、令和１０年度につきましては５回程度というのを想定してございます。

続いて、７ページを御覧ください。

令和１０年度に実施の気候市民会議での提言を受けまして、令和１１年度、１２年度にかけて計１０回程度を想定しているんですけれど

も、本審議会、小金井市環境審議会におきまして、次期環境基本計画の策定等の審議をしていただきたいと考えております。

計画の策定につきましては、令和１３年度から１０年間の計画というところで考えております。

気候市民会議終了後に皆様それぞれ解散にはなってしまうんですけれども、ボランティア活動の活性化、市民協働の推進というところも市としては推進しておりますので、市からボランティア活動の紹介、例えば環境美化サポーター制度がありますとか、市民会議で出会ったメンバー間での横のつながりができると思いますので、そういった皆様で、地域の担い手として活躍していただければなと考えているところです。

最後、こちら８ページを御覧ください。

これが他市で実施済みの気候市民会議との相違点を記載したものとなっております。他市につきましては、例えば武蔵野市、日野市、多摩市で、３市で行っているものですけれども、例えば武蔵野市であれば１６歳以上の１，５００人の方の無作為抽出の方と公募市民で構成された市民会議が６８人で構成されておりました。日野市につきましては、無作為抽出だけで４，５００人のうち４０人という形で構成されておりました。多摩市につきましては、こちら１２歳以上の方、２，０００人の無作為抽出のうち４５人というような人数で構成されておりました。小金井市の場合は、１８歳から３９歳だけではなくて、ここを中心に無作為抽出をして、また、公募の方も合わせると、無作為抽出の人数につきましては、先ほど御説明させていただきました２００人を３か年で行って、１年間かけて市の環境行事を見ていただきたいというような形を考えております。

参加者につきましては、各市４０人から６８人と、少しばらつきがあるので、どの程度がいいのかというのは、また協議、検討していきたいと考えております。

実施回数につきましても、各３市につきましては、年度で１回、５回を集中的に行ったというものがあるのですけれども、本市の場合は、令和７年度に計３回程度、令和１０年度に計５回という形で２回開催したいと考えております。

政策提言等につきましては、他市も大体同じようなものではあるのですけれども、市の計画改定時への提言、次期小金井市環境基本計画策定時の提言等をいただきたいと考えております。

雑駁ではございますが、気候市民会議については以上となります。まだ、概要の段階ではございますが、忌憚のない御意見をいただければと思いますので、皆様の御審議のほどよろしくお願いいたします。

私のほうからは以上です。

池上会長　ありがとうございました。

それでは、事務局からの説明について御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

中里委員、お願いします。

中里委員　気候市民会議の立ち上げを大分早めてやっていただくということについては、大変評価したいと思いますし、ぜひ活発にお願いしたいと思います。

いくつか質問があります。無作為抽出の年齢ですが、小金井市は割と年齢層が高いように感じますが、何か理由が定かにあってのことでしょうか。それが１つと、男女比等は、無作為ですからランダムにやってしまわれるということ、偏りというのはどうしても女性のほうが多くなってしまうのかなとか思ってしまうのですが、その辺、具体的な方針があれば教えていただきたいと思います。

ひとまず以上です。

高野係長　今、最初の御質問で、年齢層が高い方が小金井市は多いのではないかというようなご質問でしたが、特別他市と比べて年齢層が高い方が多いというような状況ではありません。１８歳から３９歳の若者世代というところが中心にというところでありますが、２００人のうち何割程度かというのはこれから検討するところで、それに加え、全年齢層の方も、例えば１８歳から３９歳が７割で、それ以外の年齢層で３割でとか、その割合をどうするかというところは検討していきたいと考えておりますので、できる限り興味がある方、いろんな方に参加していただきたいので、そういった形で検討してございます。

あと、２問目の男女比がランダムかというところでございますが、男女比半々の比率で発送を想定してございます。

以上です。

中里委員　了解です。私は、もうより若年層に環境問題に関心を持ってほしいという希望を持っておりますので、中学生、高校生あたりも学校の中でも活かせることを期待しているところなので、その辺をお含みいただければと思います。

高野係長　ありがとうございます。

池上会長　ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

田頭委員、お願いします。

田頭委員　まず、目的のところで、小金井市気候市民会議の立ち上げの目的がいくつかある中で、ゼロカーボンシティの実現のために一人一人から始める意識改革というところが大事だという御説明でした。これは全くそのとおりで、同感するところです。そのために無作為抽出、若者世代の意見を聞く機会を持とう、そのことで意識改革を促したいということだと思います。ここはそのとおりだと思うし、そうしていきたいということは同意です。

しかし、今の時代の中で、もう本当に気候危機、地球沸騰化というような時代の中で、一人一人から始める意識改革だけでは当然追いつかなくて、もう自治体が行政としてのシステムチェンジをしていかなくちゃいけないということが強く言われているわけですよね。この一人一人から始める意識改革によってと、それから、同時に行政のシステムチェンジを行うということで、そして、それが気候非常事態宣言を行った小金井市としての変化をつくっていこう、地球温暖化対策を進めていくというそういう決意の表れだと思うので、もう少しここは、市民の一人一人から始める意識改革だけが目標ではなくて、同時に行政としてのシステムチェンジを促すというか、より政策、ここでいただいた意見を次期の計画に反映するわけですから、そのことによって、行政もシステムを変えていくというような決意が表れるような書きぶりというのか、見える化というのか、そういったことがここにも出てくるとよろしいのではないかと思いますけれども、それについてはいかがでしょうかということが１つです。

それからあとは、気候市民会議立ち上げ前、市の環境行事に参加し

ていただくというような手法を想定というか、段階で思ったということも、それもいいなと思って聞いていました。ですが、どのように実際に環境フォーラムや野川環境フィールドワーク、環境講座などに参加していただけるようになるのかなと思っていて、そこがちょっと見えないなと。なかなか、皆さんに市報とかで案内しても、それほど多くは変わらないですよね、参加する方は。だけど、野川の環境フィールドワークなどは、周辺に住んでいる方たち中心にこれは一定層の参加の方がいつも見込まれているなと思うし、だけど、この目的としては、いつも関心持っている方ではない方たちに参加してもらいたい、そして意見をいただきたいということだと思うので、無作為抽出で選ばれた方々には、より強く市の取組をアピールして、参加していただきたくなるような促しが必要だと思いますが、工夫とか考えておられることがあれば教えていただきたいと思います。

環境講座というのも、どのように具体的に考えておられるのか。ここは、気候市民会議を立ち上げることで、市としては、環境講座をもっと増やしていくのかということ、そういった計画を持っておられるのかということも伺いたい。やはり気候変動についての意識啓発の中では、環境講座というか、学び、学習の場はすごく必要だと思いますので、より多くの世代が同じ意識を持つためにも、共有できるような機会というのは増やしていただきたいと思うんですけれども、予算も含めてですよね、そうなると。そういったことも考えておられるのかなど。環境講座の中には、生物多様性についてのワークショップとありますが、生物多様性もそうだし、気候変動についての現状を知るというような、あるいはＳＤＧｓという切り口で学ぶとか、いろいろあると思うんですね。ですので、１回だけではなくて、多様な講座を、学習の機会を市は考えておられるのかということも伺っておきたいと思います。

もう一つ、学校では市内の各学校のホームページを見てみると、ハチドリプロジェクトということで、各学校でそれぞれがＳＤＧｓを学んだり、各学年、年齢に応じた取組を行っているということが結構出ているんですよね。学校、子供たちがこういうことやっているのかということが分かりますので、そういう子供たち、小学校の取組を知る

とか、逆に子供たちからも意見をもらうとか、小中学校でも、小金井市の教育委員会がやっている子供への環境学習というか、気候変動に対する学習の機会、ハチドリプロジェクト、取組、自分一人でもできることをやっていこう、見つけようということだと思うので、その辺との連動というのか、せっかく市民会議を立ち上げるなら、小金井市がやっていることをもっと知ってもらいたいし、知ることで大人ももっと啓発されるということがあると思うので、教育委員会の取組との連動も何か見られないのかなと、そこについては何かお考えがあればお聞かせください。

以上です。

池上会長　ありがとうございました。

高野係長　まず、行政としてのシステムチェンジについてです。次回の審議会等までに向けて、行政としては、こういったことに取り組んでいるよというのが見えるような形であったほうが、市民たちだけにお願いしているのではなくて、行政もこれだけお願いしてやっていたり、行政もこれだけのことをやっているよというのが見えるような形であれば、より参加していただけるのかなと思いますので、そこはもっと見えるような形にしたいなと思います。ありがとうございます。

あと、２番目の環境行事に参加していただくための工夫という御質問でした。こちらの工夫につきましては、最近よく市で２次元コードを使って回答していただくというようなやり方をしているので、そういったところで、１回返信をもらえれば、メールでのやり取りでなく、２次元コードを利用したり、プッシュ型の案内もできるのかなと思っていたり、参加したいというような御意思をいただいたのであれば、その方たちに向けて、市報とは別に何かもっと詳細の御案内とかがもしかしたらできるのではないかなと思っております。そこにつきましては、これから、今日は概要というところでしたので、御意見を踏まえまして、何か取組ができればなと考えています。

環境講座を増やしていくのか、これから生物多様性、気候変動、ＳＤＧｓ等の講座等というような話があったと思います。今年度につきましても、環境学習館を利用しまして、２回環境講座を実施しまして、それに加え、生物多様性に関することということで、はけをフィール

ドにしたフィールドワークというものも実施しました。

特に今年度は、御家庭、企業の方向けに身近にできる省エネ診断というような講義を実施しまして、非常に分かりやすい内容であったので、こういった講義ができれば続けられればいいのかなと思っているところと、あと、令和６年度４月から、審議会でも何度か御協議させていただいております指定管理者制度が導入されることによりまして、指定管理者による自主事業というものも実施される予定になっております。まだこれから協議していく中ではありますが、指定管理者の中でも、四季折々に合わせた歳時記イベントというものも実施予定です。また、子ども向けの事業というものも、５月の中盤にキックオフイベントで考えておりますの。すぐに抜本的に変わるというものではないのですけれども、今までと同様に充実されていければなと考えているところです。

また、教育委員会との協働の機会、連動するものがあればというようなことについてです。ハチドリプロジェクトもそうですけれども、今、市立中学校全校で、林間学校において間伐体験の事業というものを実施しており、そういったところで教育委員会としても、気候非常事態宣言発出を踏まえて、全校の生徒に向けて間伐体験、気候変動についてのワークショップを実施しているということを伺っております。環境政策課としましても、こちらは希望する生徒さんに向けてではありますけれども、同じような間伐体験や森林教育を行っていたり、もっと小さい下の世代の未就学児対象の、子ども環境のワークショップを実施していたりしております。特に教育委員会と連動して一緒にやっているというものではないのですが、相乗効果が出るような形で事業を実施しておりますので、将来世代に向けて着実に皆様、吸収していただいているのではないかと考えております。

私のほうからは以上です。

岩佐課長　補足で、お子様たちとの関係のところですけど、やはり今回、対象１８歳から３９歳ということで、若い世代を中心に参加いただきたいというところと、あと、お子さんたちの御意見を聞いていくということも非常に重要なことだと思いますので、様々なワークショップですとか機会を捉えて、今回も環境フォーラムのほうにこういったことで、

後ほど御説明ありますけども、参加者の方々の御意見とか市民の方々の御意向とか、初めて我々も知ったきっかけになったこともありますので、そういったところ、お子様の意見もこういったアンケートなのかワークショップなのか、今後検討していきますけど、なるべく気候危機について、環境問題について知っていただいて啓発しつつ、お子さんたちの御意見も取り入れられるような仕組みを考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

池上会長　　よろしいでしょうか。

中里委員、お願いします。

中里委員　　今のお話に関連しますので、システムチェンジという切り口で言えば、指定管理者であるとか関係団体のみならず、今、小金井市は大分人口も増えていまして、事業所もたくさん小さいような感じのところも立ち並んでいるのを目にするんですけれども、そういう方たちにも参加を仰いで、できるだけ多くの人に小金井の環境の実態を共有していただければ、大分効果が上がってくるのではないかと今、ふと思ったものですから、よろしくお願いします。

高野係長　　ありがとうございます。

池上会長　　ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

橋本委員　　今の御説明でよく分りましたが、このフローを見ると、とにかく推進委員会というか、次期の計画であるとか、そこに沿って進んでいくという流れが、それは大きな流れでいいと思います。その都度その都度出てくる意見、例えば市民の活動プランとか、いろんな、こういうことをやったらいいのではないかとか、逐次吸い上げて進めていかれたらいいのではないかと思いました。

高野係長　　ありがとうございます。

プランというのは、例えば武蔵野市さんがつくっているような、そういったもので、計画とは別に提言書みたいなものというようなイメージということですね。

橋本委員　　そうですね。

高野係長　　恐らく様々な意見が出てくるかなと思いますので、我々としても、計画改定のためだけのものということは全く考えておりませんので、

様々な意見をもらって、提言書をつくりたいというような意見ももしかしたら出てくるかもしれないので、そういったものは吸い上げてやっていきたいと考えております。ありがとうございます。

橋本委員　よろしくお願いします。

池上会長　ありがとうございました。

椿委員、お願いします。

椿副会長　既に出していただいた意見と大分重なる部分はあるのですが、まず１点目は、今日お話しいただいた気候市民会議の対象とする無作為抽出の１８歳から３９歳というところです。いまは環境関連行事に参加いただくことが想定されていますが、中身の方からいえば、令和７年度を待たず、例えば来年度から環境関連行事の中に、プレ気候市民会議的な部分も入れていただくのがよいではと思います。本格的には令和７年度に第１回目を開催すると理解しましたが、次年度のイベントに、会議の在り方含め、市民の方々、色々な立場の方々が日々やっていらっしゃること、あるいは今、お話に出た、既に小学校、中学校でやっていること、子どもたちが何を考えどんなことをしているのか、を含めて共有する場を次年度ワークショップなり行事に入れ込んではどうかという意見です。

内容と誰を対象にするかは連動しますが、先ほど言っていただいたように、私も子どもたちを会議の中に含めていくのはとっても重要だと思います。さらに、子どもと日々生活されている保護者、つまり親子の色々な世代の方が集まって、考えを認識できる場がとても重要と思います。一方、環境関連行事にあまり参加されていない若者世代に、との意図と思いますが、それについて言うと、１８歳から３９歳の世代の方が、抽出されたからといって参加できるかと考えますと、行事ですから何月何日と決まっていることと思うので、厳しい面があると思いました。その点含め、もう少し幅を取ってもいいのではないかという意見です。

それから素朴な質問で、対象となる市民というのは、住民票を持っていらっしゃる方ということでしょうか。あるいは大学生のように、住民票はないけれど、在学、あるいは在勤している方も含むのか、これは単純な疑問です。

最後３点目は、これはもう既に今、意見として出たものですが、目的のところに、市民の方が自分事として一人一人考えてもらう、行動してもらうということが一番重要になるのはおっしゃるとおりと思いますが、それも含め、会議の目的としては、やはり色々な立場の、行政の方、事業者の方、我々みたいな大学関係者とかが相互認識を深めながら、どのように連携、協働できるかという点も入れていただくと非常にいいのではと思います。

以上です。

高野係長　　３点、ありがとうございます。まず、気候市民会議のプレ会議のようなものをしてみたらどうだという御意見について、今年度の環境フォーラム、３月１１日に小金井 宮地楽器ホールで行ったときに、小金井市の主催の中で市民団体さんが取り持ってくれたんですけれども、気候変動に関する車座トークというものを実施しまして、気候変動について、それぞれの意見、思うことというのを話し合うような場がありました。その中でも、簡単な気候変更に関する意識調査というものも併せて紹介させていただき、多くの御意見をいただいて、それも踏まえていろんな話ができたということがありましたので、確かに参加を促すだけで令和７年度まで待つというよりも、フォーラムのような場でそういったプレ会議のような形で、来年度に向けて今からできることは何かなというような話合いをするような場があってもいいのかなと思ったところです。そうすることによってモチベーションというものも継続できるのかなと思いましたので、そういったところも検討させていただければと思います。どうもありがとうございます。

２番目です。１８歳から３９歳を中心にというところではありますが、幅をもっと広く取っていいのではないかというところもありまして、そちらも市議会でも、であまり限定しないほうがというような意見や、若者が中心のほうがいいのではないかという意見もいろいろあるところであるので、そこにつきましては、また調整して御協議いただければと思っております。

あと２番目は、簡に住民票がある方だけなのかというご質問です。こちらは市民課で住民票がある方の抽出になるので、住民票がある方だけでないと抽出ができないので、こちらはほかの無作為抽出と同じ

ような形で抽出したいと考えております。

あと３番目の大学や、企業など一緒になって行動していく、そういったことが、産官民学など、いろいろあると思いますので、市と市民だけではなくて、いい意味で巻き込んでいければなと思っております。せっかく東京学芸大学、東京農工大学、あと法政大学もありますので、そういったところとも御協議させていただきながらできればと思っているところです。ありがとうございます。

椿副会長　ありがとうございます。

池上会長　ありがとうございました。

田頭委員。

田頭委員　今の椿先生の御質問に対している高野さんのお話、御説明の中で、環境フォーラムで実際にプレ市民会議ではないけれども、市民が企画したところに行政も参加することで意見交換ができたってお話がありました。これは本当に私も、行政の方が４人も参加してくださったんですよね。市民もすごく驚きの声が後からも聞こえたりしていました。やっぱりいいなという。率直に、公のこういう会議とかではない場で意見交換ができるというか、すごく率直な御意見があったじゃないですか、こんなに意見が来ると思わなかったとか、実際に市が持っている計画を知らない人がこんなにいたんだとか、そういうような率直な意見を交わせたという場がとても大事だなと改めて、私もそこに参加させてもらって感じたところです。

ですので、そこはやっぱり環境フォーラムという、市が企画する、主催する場があったからそれをうまく活用できたのかなと思いますので、毎年やっているそういう環境フォーラムという場を今後ももっと活用してうまく使ってもらう、それには、参加された方は任意団体ですけど、環境市民会議という一応、任意団体ではあるが、条例に位置づけられた仕組みがあって、団体があって、そこがこの環境フォーラムに協力するという形で、ゼロエミ小金井という団体が、気候変動に対するワークショップをしたいという、それでは、車座トークをやるというような思いも、そこに至ったという経緯もありますから、やっぱり市民会議とうまく連携していただくということも重要かなと今、御説明を伺っていて感じました。そこはうまく市民協働を、組織を持

っているから、仕組みを持っているので進めていく場になると思いますので、今後も検討していただきたいとお願いしておきます。

以上です。

高野係長　ありがとうございます。

４人との話しでしたが、職員４人と市長もいたので５人です。

田頭委員　そうだ、市長も参加してくれていました。そうです。ありがとうございます。

高野係長　ありがとうございます。

池上会長　ありがとうございました。

既にいくつか出てきているのですが、広く今まで環境に興味を持ってなかった人も集めたいというところが一番大事かと思いますし、幅を広げていくといいますか、輪を広げていくことが大事だと思いますので、ただ、そこで２００人という数字が十分かどうかというところがやっぱり気になってしまって、他市と比べると人数が少ないというところがあるのと、プッシュ型の通知の仕方によっても、やっぱりプッシュ型の通知も郵送すると郵送費がかかり、予算の問題もあるのかなとは思いますけれども、来年度には間に合わないとしても、その後さらにもう２回、２００人ずつ抽出するタイミングがあるかと思いますけど、そのときまでに、もしかしたら環境政策課だけでやることではないかもしれません、もしかしたら既にあるのかもしれませんけれども、自治体のＬＩＮＥとか、私も小金井市ではないんですけど、自分の自治体のＬＩＮＥに入っていて、通知がいろいろ来るという状況になっているんですけども、無作為抽出の結果も、そういったところで発信できればコストは非常に安く、大量に集められると、しかもその集まっている状況を見ながら追加でも募集をかけられると。いいところはいっぱいあるんじゃないかなと思います。

先ほどの参加者、他市の場合の参加者というのが、実際希望した人が全員なのか、希望した人でも入れない人がいたのか、そこは分からないんですけども、特にほかのところは年齢の上限がない中で募集しているところと比べると、やっぱり土日に開催されるであろうイベントに参加するときの時間の、例えば子育てしていて、子供の面倒があるから子供を置いてなかなかそういうところを聴きにいけないとか、

そういった世代がいたりするかと思いますし、大学生とかは、せっかく遊べる土日にみたいな、例ですけれども、そういうのがあると、なかなか若い世代って、こういうイベントに土日に参加するというのはハードルが高いという印象がやっぱりあります。

そういう点で、２００人募集して何人来るのかなという心配が一番大きいです。５から１０％、２０人集まるかなという心配が正直あります。追加で募集できるのかというときに、やっぱりコストがかかるとなかなか難しいところがありますけど、別のコストがかからない手段が、ここだけじゃなくて恐らくほかの課でもこういうことってあるかと思いますので、そういうツールが使えるようになっていくというのがいいのかなと思います。

高野係長　　分かりました。会長から御意見いただきました。まず、こちらの２００人というところで、５から１０％程度かなというところで、その根拠とさせていただいたところなんですけれども、会長の自治体もあるというお話の中で、ＬＩＮＥにつきましても、昨年の１２月１日から小金井市のほうでも公式ＬＩＮＥを始めてございます。こちらの公式ＬＩＮＥでも、小金井市でも環境フォーラムを実施しますとか、事業の通知をさせていただいております。かなりの登録者数がいらっしゃいますので、反響が結構大きいです。なので、もしこちらの２００人のうち、こちらが希望している人数が集まらないというようなことがあったら、公募市民というところも想定していますので、ＬＩＮＥであったり、ＸであったりＳＮＳを活用して再募集というような形を検討できればと考えております。

あと、希望した人全員が入れるかというところですけれども、基本的には、希望された方には、まず来年度は、フォーラム等に参加していただくというところが中心になってくると思うので、来たものは拒まずといいますか、そうような形にしたいと考えております。

あと、最終的な、全体的な参加者につきましては、最大が日野市の４０人から武蔵野市の６８人というような話をさせていただいているので、この人数が、６０人ぐらいさばけるって言い方はあれですけれども、皆様をちゃんとエスコートできる人数なのかなと思っておりますので、もしかしたら人数が、うれしいことにオーバーしてしまった

場合は、何か考えなければいけないのかなと思ってはいますが、まずは、どのぐらい来るかというところは、こういった事業について無作為抽出をするのが市で初めてのことで、あくまで今までの無作為抽出って、審議会の募集に対する無作為抽出なので、それよりは少しハードルが低いのかなと思っているので、もしかしたら想定を超える方が興味を持ってくださって、参加していただけるかもしれないなとか、そこは初めてのことなので、やってみてからというところが大きいかなと思っているところです。

特に子育て世代、若者、特に大学生は土日多分忙しいとは思うんですけれども、全部に参加されなくても、そのうちの１つだけでも参加していただければ、全部に参加しないともう令和７年度参加できないよというようなものではないので、そのうちの１個だけでも、全部参加したいという方もいらっしゃるとは思うんですけれども、選んでいただいて参加していただくというのがよろしいのかなと思っているところです。

以上です。

池上会長　ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

椿委員、お願いします。

椿副会長　気候市民会議の本格的な立ち上げに向けた前段階として、１つは、さっき田頭委員もおっしゃっていた、既にある組織・団体の活動の一つとして、この気候市民会議をより充実させた形でスタートするための、プレ会議マラソンみたいな感じで、各組織・団体がやっているイベント・行事の中で、ある程度目標を共有しながらそれに向けた会議というか、ワークショップ的なことをやっていただくようなことがあってもよいのではと思いました。各組織・団体がやっていらっしゃる、広い意味での環境、地球環境問題に関することを、全体的に体系化できるとよいのでは、あるいはほかが何をどんなふうにやっているのかを知ることができる、情報を共有できる、そういう体系化も御検討いただくとよいのではないかと思いました。

以上です。

高野係長　ありがとうございました。

池上会長　　ありがとうございました。

それでは、ほかにございませんでしょうか。

それでは、よろしければ次の議題に移りたいと思います。

議題２（３）その他について、事務局のほうからお願いいたします。

高野係長　　その他としましては、昨年の１０月１７日及び１２月２０日の環境審議会を傍聴された方から意見・提案シートの提出がございましたので、意見・提案シートにつきましては議題として上げるということになりますので、資料３の（１）と（２）を御覧ください。

まず、１０月１７日の意見・提案シートにつきましては、本来であれば、１２月２２日実施の審議会で議題として上げるものだったんですけれども、意見・提案シート提出のメールというものが届いておらず、環境政策課のほうで確認ができなかったため、今回議題として上げるものとなってございます。こちらも、市民につきましても公表の対象となりますことから、黒塗り等はせずに、原文のままで皆様に配付しておりますので、そちらにつきましてもよろしくお願いいたします。

まず、３の（１）の１０月１７日の環境審議会を踏まえての意見・提案シートになっております。こちらにつきましては、前回の審議会のときに市議会のほうに陳情がありましたということと内容的には同じものになっています。前回の審議会のときには紙資料では配付せずに、私が口頭だけでお話ししたものになります。例えば表面の提案事項の①の脱炭素を市政の根本に置いて大きなビジョン・目的の下に施策を進めてくださいというような形で御提案をいただいております。気候市民会議を立ち上げたいというようなお話であったり、環境基本計画であったり、第２次地球温暖化対策地域推進計画についての改定であったりというところで検討しておりますので、こちら御意見として頂戴したいなと考えております。

２番目の市民が「脱炭素の街づくり」について市政へ提言する場をつくってくださいというところです。こちらにつきましては、気候市民会議がそれに当たると考えています。

３番目のCO_2削減の目標値を高く設定して、毎年削減の進捗を確認できるようにという御意見です。こちらにつきましても、私たちが今

持っている地球温暖化防止の地域推進計画につきましての計画の数値のことかと思います。こちらにつきましても、昨年度の審議会でも、数値の改定等につきましては御協議させていただいていることと、気候市民会議立ち上げの説明にもしましたが、見直しをしたいというところも説明していますので、そういったところで、数値の見直し等につきましては検討していきたいと考えております。

裏面を御覧ください。

一番下に書いてあるところのまとめというところです。ゼロカーボンシティの実現のために、市だけではなくて市民、事業者が一緒になって考えて、自分事として取り組むという環境をつくることが何よりも大事ですという御意見です。皆様から御議論いただいているところで、市民だけが頑張るのではなくて、市がどれだけ頑張っているかというところも見せてほしいというようなことも御意見いただいておりましたし、事業者であったり大学であったり、そういったところと一緒に協働してやっていけるような環境をつくることというのが大事だよということで、皆様からも御審議していただいておりますので、こちらも、我々も、審議会としても進めていると思いますので、御意見としていただきたいです。

３の（２）を御覧ください。これはもう一つ、１２月２２日に実施した環境審議会を踏まえての意見・提案シートになっております。こちらでの御意見としましては、温室効果ガス削減についての議論は少し後ろ向きに進めているのではないかというふうなことでの御意見をいただいてございます。削減目標につきましては、達成されていない現状というところは確かにあるところではあるんですけれども、これからも本審議会、気候市民会議等の中で、適切にできるような形で進めていきたいと思っております。

あと、２０１３年度比でも、各市の温室効果ガスの削減の数値と本市が比べられているものがありますが、例えば国分寺市さんが２０１３年度比で２０２０年にマイナス１６．８％になっている、小平市になると、２１年度にマイナス２３％になっているけれども、小金井市は、これは基準年度が違うんですけれども、２０１９年度比でプラス０．０７と、微増ではあるけれどもプラスになってしまっているという御意

見等もいただいているところです。こちらにつきましては、数字で見てしまうと、各市、すごく下がっていると見えるのですけれども、あくまでこちらで出している基準年度が、各市は２０１３年度比で出しているというものと、小金井市の場合は２０１９年度比で出しているというところで、温室効果ガスの排出係数が異なっているものでの比較になってしまいますので、単純比較はできないのかなというところと、もちろん他市との比較も重要であるんですけれども、比較して数字がいい悪いというところだけではなくて、各市がどういった取組をしているのかというところも見ながら議論を進めていきたいと思います。数字としては真摯に受け止めつつも、市としても温室効果ガス排出削減の取組を実施しているところですので、数字の検討といいますか、数字だけを見て、それで一喜一憂はしない環境行政を進めていきたいと考えております。

最後のところ、市が宣言していますゼロカーボンシティ実現のためには、それぞれの役割の方たちが自分事として取り組んでいくことが必要ですということと、環境審議会の皆様には、重要事項について調査する場、重要な附属機関であるので責任ある発言を求めますという御意見をいただいているところです。皆様から積極的に率先して温室効果ガス排出削減に向けて御意見いただいていると思っておりますので、引き続き、忌憚のない御意見をいただきながら、環境行政等を進めていきたいと考えております。

事前にもメールで配信していますので、皆様からこの提案シート等を踏まえて忌憚のない御意見いただければと思います。

以上です。

池上会長　ありがとうございました。

それでは、まず私のほうから、特に（２）のほうで、私が発言した内容に関しても触れられていますので、これに対して発言しておきたいと思います。まず、先ほど事務局からも説明がありましたこの審議会は、市の温室効果ガス排出削減に向けて、皆さん、市の環境を何とかしようと思って参加してくださっていると思いますし、私自身も、市だけではなくて、研究自体が日本の温室効果ガス排出量を何とかしようと、そういうモチベーションでやっております。ですので、皆さ

んそれぞれの思いで参加されていると思いますし、決して無責任な発言があったとは、私自身は感じておりません。こういう意見が出てくること自体はすごくよいことかなと思いますけれども、ここに書かれている内容で誤っている、論理的ではないところというか、数字がいっぱい書いてあるから一見論理的に見えますけれども、そうじゃない部分もありますので、そこはちゃんとある程度は状況を話しておかないと、これが公表されたときに誤解される懸念があるのではないかと思います。

ここに書かれていることだけを見ると、小金井市は周りの自治体と比べて取組が少ないのはないか、全然達成できてないのではないか、そういうふうにも見えないわけではないと思います。そこをもう少し整理して話しておきたいと思います。

まず、小金井市が発表している温室効果ガス排出量に関する数値というのは、市役所編というのと市域編、２つあります。市役所の事業所、事業者としての排出量と市民も含めた市域全体での排出量があります。それぞれ、例えば市の市域全体の目標の数値があったり、何年度比どれだけなっているかという経過の報告があったりということがありますが、ここに書かれている数字はそれが少し混ざっている状況なので、そこはしっかりと注意して見る必要があるというようなところが第一です。

市域全体と市役所の排出量の、そもそも持つ意味ということをしっかりと理解しないといけないかなと思っていますけれども、まず、市の事業者としての排出量についてですが、今日の資料の中にも環境報告書がありまして、市の公共施設の排出量、５２ページに、市役所関連、公共施設等における温室効果ガス排出量という数字があります。これが市の事業者としての排出量ということになります。ここにあるように、それぞれの施設ごとに計測されたエネルギー消費量からCO_2の排出係数を掛け算して、CO_2の排出量を計算していく。電気だけを利用している施設もあれば都市ガス、それ以外の燃料を使っている施設もありますが、それぞれの建物ごとに計算されたものになっている。小金井市役所の全施設の数値が減少したということと、ほかの自治体が同じように市の全施設の排出量が減少したということを同列で比較

することがそもそも違うのではないかと思っています。こういう市の施設の合計の数字だけが外に出てきて、数字だけで比較して、ほかの市は削減パーセント大きい、小金井市は増えている、その数字だけで比較して一喜一憂するのは、まず違うのではないかと思っています。

例えば、私はこの他市の数字が、最初は市域全体の数字かと思って、もうこんなに減っている市があるのかと、正直この意見を見て驚きました。それで、ではなぜ減っているのか、ちょっと調べてみようかと思って、いくつか調べました。例えば市の施設としての排出量というのは、ここにありますように、小金井市、例えば今年の数字が特によい例かもしれませんけれども、それぞれの建物ごとに排出量が増えたり減ったりします。例えばぱっと目につくのは、体育館とか活動量が増えると、排出量が増えたりしていますし、野川クリーンセンターのように、今まで建物としてなかったものが新たにできると一気に排出量が増えます。逆に何かの施設がなくなると、排出量は減ります。この意見シートの中のある自治体は、小金井市と同じようにこういう建物ごとの内訳が書かれておりまして、それを見ますと、清掃系、清掃センターとかし尿処理関連施設、そういったところの排出量が、２０１３年には活動していたけれども現在なくなっていると。そうすると、それだけで排出量が大幅に減ったように見えます。実際のところ、そのような数値を除くと、こんな削減パーセントには決してならずに、逆に増加していると、そういう数字です。

だから、全体を見て減っている増えているというのは、決してそこだけで議論すべきことではなく、ほかの自治体が、例えば減っているとしたらどうやって減らしているんだろうかという、その対策を参考にすべきであって、全体の数字を見て一喜一憂するものでは決してないということをまず理解する必要があると思います。

もう一つは、この意見シートにある、私の発言に関する部分です。これは市の排出量ではなくて、市域全体の排出量に関して発言したもので、市域全体の排出量について、小金井市は削減目標に到達してきていないというところが、これまでの環境審議会の中でも出てきている数字かなと思います。それはなぜかというところをしっかりと理解する必要はあって、小金井市の大きな特徴として、家庭部門からの排

出量の割合が非常に高い。業務だけじゃなくて、産業部門の排出量の割合が非常に小さいというところがあります。

自治体全体の、市域全体の排出量の推計方法というのは、環境省からの資料が出ていて、こういう方法で推計しましょうというものです。いくつかもちろん手法があって、最も簡易な方法というのは、市で独自で調査するわけではなくて、都道府県が行っている集計、それを家庭部門においては世帯数で案分しましょうと、そういう数字が各自治体に下りてくるようになっています。ですので、小金井市の減り具合の少なさというのは、東京都のほかの自治体の減り具合の少なさと基本的には関連があって、同じようになっている。では、なぜほかの自治体は削減量が多くなっているのかというところを見ないといけない。

そこを見ますと、やっぱり産業部門の排出量の割合が高い。産業部門というのは、直接自分たちの利益にも影響するところ、省エネを進めるとコストが減り、利益が増えることにつながるので、環境負荷削減と経済性の両立がしやすい分野が多くて、やっぱりそっちからの削減というのが先に進む、どこの地域でもそうだと思いますけども、そういったものですので、家庭部門と産業部門の割合が違うと、そもそも全体のパーセントを見て、あそこはすごいね、ここはだめだねということになってはならない。そういう点で、小金井市はそういう状況であるということを踏まえて数字を理解する必要があると思っています。

小金井市はほかの市と違うところがありますから、それを理解した上で、だったら小金井市の家庭部門の排出量をどうやったら減らせるのかということを考えなきゃいけない。

今の仕組みで、前回の地球温暖化対策推進計画の目標値策定のときにも関係しましたけれども、小金井市独自の政策、いろいろと取組がありますけども、その部分を反映できるところというのは非常に少ない。先ほど言いましたように、家庭部門のところというのは、都道府県から下りてくる数字がベースになっていて、それ以外というのは、直接自分たちでやったことが明確に計測できるものに関しては置き換えている。例えば以前だとエコドライブとか、そういったイベントがあると、参加した人数に関連して減らしたということに関与はできま

すけども、どうしても参加者というのはそのイベントに参加した人だけと、限られていますので、大きな削減効果にはならない。対象者を広げて計測するということは難しいしコストがかかるので、その計測を本当にやるのかどうかというところをしっかりと考慮しないといけないと思います。

環境家計簿というのも、いろいろ他の自治体も含め、積極的に進めているところもあるかと思いますけども、それも一つの計測するツール、それの精度が本当に正しいものが上がってきているのかというのはあるかと思いますけれども、計測する一つの方法として、そういうことを活用している自治体もありますし、そういう意味では、それぞれの自治体で自分たちの数字がどう変化しているかということを比較する、その中で、どこの対策に力を入れるべきかという、施策にどうしたら活かせるかというところを議論するために目標値を定めているのであって、決して他市と比較するために発表しているのではないということをしっかりと理解しないと、こういう意見が上がってきてしまって、小金井市が恥ずかしい思いをしてしまうのはよくないと思います。

そういう意味では、目標を定めることというのは、当然そこに向かって対策を進めることになりますけども、それを小金井市としての対策でどれだけ実現できるのかというところをしっかりと分けていくことがすごく大事かなと思います。

今回意見をいただいて、他市の数字はこんなのかと思って調べた中には、いろんな施策も書かれていて、小金井市もこれは参考になるんじゃないかという政策はいっぱい載っていたりします。しかしその施策の削減効果みたいなものを、市が貢献したものとそうじゃないものとが区別されて報告書には載っていない。そもそも細かく公表されていないので、実際どうやって計算したかというのは分からないんですけども、例えば２０３０年に、電気自動車、あるいは燃料電池自動車が登録されているものの１０％にしますと。１０％にその自治体が出している補助金で本当になるかどうかなんて、全然検証もなくて、目標と政策が本当に一致しているかなんて全然分からない目標値がいっぱいあるんですね。だからそういう意味では、小金井市は実際対策し

て、対策したものだけを計上して、ただ、それ以外のところというのは、東京都、あるいは国の施策による分だとして切り分けてやっていると。なので、どうしても小金井市の評価の数字というのは、小金井市としての対策の効果が見えにくい。全体のＣＯ$_2$排出量で議論していても、ＣＯ$_2$の係数が、これまでの環境審議会にも出てきましたけど、ＣＯ$_2$の排出係数が変わりました、人口世帯数が変わりました、それで大きな影響を受けて、小金井市がやっている対策の結果がもう打ち消されちゃって見えない。そうすると、やっていることの効果が見えないと、やっぱり市民としても、小金井市はちゃんとやっていないじゃないかというふうに評価してもらえなくなりますし、こういう意見も出てくるということかなと思います。

ですので、私自身は、先ほどの次期計画と、あるいはその中間見直しがありますけれども、この意見をいただいてすごく大事なのは、やっぱり市民協働ですかね。自治体の中でも横のつながりをしっかりとして、環境政策課だけじゃなく、小金井市全体として、市役所全体として、いろんな事業においてこういう環境負荷のことを考えていくということはすごく大事だと思いますし、市民協働がないと市域全体のことは変わっていかない。ただ、それが変わっていったとしても、今の評価方法の数字だと、決して市独自の対策の結果が見えるようにはならないというところが大きな問題点だと思っていて、そこを何とかしない限りは、次の目標を高く掲げても、また達成できませんでしたという結果だけが出てきてしまって、頑張ったのにできなかったね、そういう結果になってしまう懸念がすごくあると思います。だからこそ、何で比較するか、何で評価するかというところをすごく意識する必要があります。

私が個人的に思うのは、省エネももちろん大事なんですけど、省エネの基準も、省エネ法が改正されて、単にエネルギー消費量を減らしましょうではなくて、時間帯によってエネルギーの価値って変わってきています。蓄電池が必要ですよという話もありますけども、蓄電池というのは省エネ機器ではないんですね。充電して放電するとロスが発生するので、省エネとは真逆な機器なわけです。そういう機器が価値を持つ時代になるということをしっかりと理解して、エネルギーの

使い方を考えないといけないですし、そもそも省エネではなくて、CO_2を考えるということは、そもそも機器を転換していかないといけない。現状は都市ガスなどの化石燃料を使うと絶対にCO_2が出ます。もちろん電気も現状はCO_2が出ます。でも、電気はこれからの世の中、小金井市の外かもしれませんけれども、再エネがどんどん入っていく時代になっている。そうすると、そういう電気を利用できるようになっていくので、ガス利用機器を電化していく必要があるというのは、今、最近の世の中の大きなトレンドといいますか、大きな方向性、脱炭素に向けての方向性としてはあります。ガス業界の人たちからすると、耳が痛い話かもしれませんけども、ガス業界はガス業界で、いかにカーボンニュートラルのガスにするかということを検討しているところもありますし、そこが実際どうなるかによって世の中、将来のエネルギーシステムがどうなるかというところはすごく難しいところです。ガソリン車を電気自動車に変えましょうというのも大きく電化の流れの一つですけれども、そういうふうな機器の転換というのは、やっぱり１回買ってしまうとなかなか買換えができないということもあったりしますので、そういったところを大きく、先ほど組織のシステムチェンジという話もありましたけども、エネルギーシステムのチェンジを促すような取組というところは実際には大事かと思います。そういうシステムを変えたことによるメリットが得られるように評価指標も変えていかないといけない。

そこがすごく本当は難しいところで、それを次の中間見直しでどこまで反映できるのかというところが、個人的にはすごく心配しているところです。そこで、あまり評価方法は変わらないまま数値だけが高くしましょうみたいなことになったら、果たしてそれが本当の意味で小金井市の削減につながるかというところがすごく気がかりだと思います。目標を立てるだけでは決して減らないということをすごく思っています。

国全体のように、計測がしっかりとできるような、統計を集められるような場所とは違って、小金井市での取組、例えば小金井市の家庭に太陽光発電がどんなに入っても、小金井市が補助していないものに関しては、小金井市の削減とはみなされない。そういう状況では、決

して小金井市の結果が見えるような状況にならないと思います。だからこそ前回の温暖化対策推進計画では、全体のＣＯ$_2$の排出をだけではなくて、太陽光発電の普及量の目標とか、細かく別の目標を定めて、それが達成できているかを見ていったほうがいいのではないか、そういう提案をさせていただきましたけども、そういうところがすごく大事だなと思っています。だからこそ合計のＣＯ$_2$排出量で言われてしまうと、非常に悲しい、そういう感想を持ちました。

ですので、この意見はこの意見ですごく大事な部分、市民協働の話と市役所内での横断的なところ、そこがすごく大事だと思いますし、こういう他市と合計の数字だけで比較することがないように、市としてもＣＯ$_2$の排出量の合計の数字にとらわれない指標でしっかりと環境への対策をアピールしていくことがすごく大事だなと感じました。反省も踏まえて感じたところでございます。

私からは以上です。

高野係長　他市と比較するものではないのは、会長がおっしゃるとおりでありますが、ただ、市民の方の見え方として、こんなに数字が違うの？と思われてしまうと、市としても何かしてないのではないかと思われてしまうと心苦しいところがあるので、少しだけ紹介させていただくと、もし小金井市と同じ２０１９年度比で２０２１年の数字を出した場合ですけれども、小金井がプラス０．０７％と増加にはなっておりますがある自治体は、プラス２％だったりプラス２．３％だったり、マイナス８％という自治体もあったのですが、十何％、二十何％に比べて、そこまで乖離がありませんでした。会長がおっしゃるとおり一喜一憂する数字ではないのですけれども、そういったところだけ皆様には共有させていただければと思います。

以上です。

池上会長　ありがとうございます。

もし何かありましたらお願いします。

中里委員　会長のお話を伺って、私など専門知識は何もないものですから、それこそ大所高所から平たい言葉で語っていただきまして、非常に分かりやすくて、本当に大学の講義を無料で受けさせていただいたようでとてもラッキーでございました。ありがとうございました。

池上会長　　田頭委員、お願いします。

田頭委員　　中里委員の今の御意見、もう同感するところです。こういう議論が、議論というか、会長からのお話を聞けるということも、こういった意見シートがあって、傍聴の方から率直な御意見を出していただいたということの効果だと思いますので、やはりこのシートで意見をいただく、率直な意見いただくということはとても大事だなと改めて感じました。

意見に対して、池上会長が真摯に対応していただいたということも、本当にこれは池上会長だからこそだろうと思いますし、私たちも、自分のこととして、やはり自分もこの審議会の委員として、この場にいる者として同様に責任は感じつつ、やはり学びの場がまださらに必要だなということも感じつつ、こういった、やはり市民からはそれだけ見えにくいことであるということも改めて認識して、行政ともここはまた意見交換しながら、さらに実効的な目標を持つということで施策を進めるということに私たちも努力したいと思ったことはお伝えしておきます。

池上会長　　ほか、いかがでしょうか。

椿委員、お願いします。

椿副会長　　私も全く同感で、前もお話を聞きながら思ったのですが、数値目標、数字データって非常に目には飛び込んでくるけれども、池上先生がおっしゃったとおり、実態と乖離していたり、どう解釈するかは、結構難しいところで、分からない部分がたくさんあると思います。ですので、ぜひ一般向けに、こうしたお話をしていただく機会を設けていただくとありがたいです。

池上会長　　ほかいかがでしょうか。

次に移りたいと思います。

続いて、３の報告事項に入りまして、（１）小金井市環境報告書についてということで、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野係長　　それでは、報告事項につきまして、（１）環境報告書（令和４年度版）からと、（３）気候変動等に関する意識調査につきましてまで、まとめて報告させていただきます。あと（１）の小金井市環境報告書（令和４年度版）につきましては、今、冊子で配付しています。それと、意

見を頂戴いたしまして、反映できるところは反映させております。

（２）の令和６年度小金井市住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金につきましては、資料５を御覧ください。こちらは報告になります。予算編成前に補助金について、執行率１００％を超えてしまっているので、増額したいということで御相談させていただきました。令和５年度予算が１，００４万５，０００円に対して、令和６年度につきましては１，６３８万円要求しており、市議会でも恐らくそのまま御議決いただけるのではないかと考えております。

最後、資料６のところで、気候変動等の意識調査というものについてです。環境フォーラム、３月１０日と３月１１日に小金井 宮地楽器ホールで実施した環境フォーラムであったり、市役所第二庁舎で２２日までの予定で１階の風除室で調査を実施させていただいていたり、あとインターネットのフォームも活用させていただきまして、インターネットでも回答いただいております。インターネットのフォーム等につきましては、会長も先ほどおっしゃったＬＩＮＥで通知させていただき、かなり回答をいただきました。詳細につきましては、また中間報告という形ですが、地球温暖化問題について興味・関心がある方がかなり多い数字であったり、１．５度目標を知っていますかとかゼロカーボンに興味がありますかというような集計を取っております。

市が行っているゼロカーボンに向けた取組、住宅用新エネルギー機器であったり次世代自動車補助金、省エネチャレンジ事業について知っていますかというような問いに対して、知らないと述べた方が、多くいらっしゃいました。１００％執行していても知らない方がこれだけいるのかなというところがあるので、啓発をこれからもしていって、この数字が、知っているほうにたくさん丸がつくように、継続して、調査を実施していければと考えています。

私のほうからは以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

何かただいまの御説明に対して御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

田頭委員、お願いします。

田頭委員　　今回のこの取組については、意識調査はとてもよかったなと思って

います。この設問については、どこかコンサルに出したとかではなく、庁内で行ったのですか。

高野係長　庁内で、職員で考えて作成しました。

田頭委員　環境政策課のほうでつくられたということですよね。

高野係長　はい、そうです。

田頭委員　そういったこともすごくよかったなと思っています。ありがとうございました。仕事が忙しい中で取り組んでいただいたと思うんですけど、やはりそうやって職員の方が工夫しながら、また、市の取組を市民に伝えるという、とてもつながる取組だったと思いますので、ぜひそこはまた経年変化を見るという意味でも続けていく考えもあるとおっしゃってくださいましたけれども、ぜひ続けてほしいと思います。

また、この設問についての見直しなども、今回の意見から反映したものも出てくるかもしれないし、また、いろんな機会を、場を持っていただく、子供の意見もまたそこで聞くとか、あるいは、さっきも申し上げましたけど、環境市民会議なんかもそういう場がありますから、そういう市民の声を聞く機会を持ちながら、経年で続けていただきたいと思っています。

以上です。

池上会長　橋本委員、お願いします。

橋本委員　簡単な質問です。これは中間報告とありますが、いつまで続けるのですか。

高野係長　実施概要のところ、２ページに書いてあるのですが、３月２２日までを予定しておりますので、明日までです。この審議会に合わせて、１８日現在という形で報告させていただきました。恐らくもうそこまで増えることはないので、ほぼほぼ最終の形かとは思っております。

橋本委員　分かりました。

池上会長　田頭委員、お願いします。

田頭委員　もしかしたらもう報告資料５のほうなのかもしれないんですけども、質問してもよろしいですか。

高野係長　はい。

田頭委員　住宅用新エネルギー機器普及促進補助金があって、今、市民の関心が増えているのか、補助金を増額するというお話がありました。これ

は市民に対する取組としてもありがたいと思っているんですけれども、一方、先ほどもちょっと出てきました、新しい庁舎、新庁舎に対する取組のところで、省エネとか、あるいは再エネというようなエネルギー対策、また、昨今は国や東京都が住宅断熱化について、断熱窓もそうです、含めて、すごく補助金を出していますよね。そういったことが新庁舎にも生かせるような施策を環境政策課としては提案するのか、しているのかということについて、現状を伺っておきたい、また、方針についてのお考えを伺っておきたいと思います。教えてください。

岩佐課長　　新庁舎のほうについては、ほぼほぼ実施設計等は決まってございますけども、こういった地球温暖化対策の実行計画市（役所版）とかにも、市の公共施設の建築管理等に関する取組も載せていただいていますので、こういったものも参考にしながら検討いただいていると思いますし、環境政策課のほうで様々な補助金ですとか環境に配慮した取組等も民間事業者等からも御提案いただいていますので、必要に応じて情報提供のほうはさせていただいているところです。

田頭委員　　ありがとうございます。

ぜひ国のほうが、国だとすごく強く言っているなということを見ていますので、そういった状況を庁舎のほうの担当のほうと環境課のほうからもきちんと伝えていただいて、しっかり伝えていただいて、使えるんだったらもっと増やしていくとか、より今の段階でもできる取組についてはアップしていくような、そういったそんな支援のことも環境課のほうから進めていただきたいなと思っていることをお伝えしておきます。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

今回の資料とは直接関係ないかもしれないんですけども、最後にありました意識調査というのはすごく重要だと思いますし、環境フォーラムに参加した人を中心の回答かなと思いますけども、昨年でしたか、気候非常事態宣言のところにもありましたけれども、環境教育に力を入れますと。環境教育ってちょっと幅が広いですけれども、環境の中には、気候変動対策だけじゃなくて、野川がある小金井市は生物多様性もあったりするかと思うんですけども、こういう意識調査が継続し

ていくことによってどう変わったかというところが、教育の効果の見える化、やった成果としてどうやって評価するかというところと関連してくるのかなと思いますので、教育に力入れますよと言って、何も評価方法がなかったら言っただけになってしまいますので、こういう意識調査をもう少し広げて、小中学生も含めていろんなところでやれると、小金井市の教育に対しての取組も結果というのが見えるようになってくるのかなと思います。もう少し分母が広がるような何かがあるといいなと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、続いて、ただいままで報告事項１から３までやっていただきましたので、（４）その他について、何か事務局のほうからありますでしょうか。

岩佐課長　前回の審議会の際にも御案内させていただきましたけども、今期の環境審議会につきましては、本日で最後となります。２年間御審議のほうをいただきまして、どうもありがとうございました。

今期は、地球温暖化対策地域推進計画の目標数値の在り方ですとか、あと市立公園等環境学習館の指定管理の公募についても御議論いただきました。それから市の施設における自動販売機の設置に関する方針など、多くのことを御議論として上げさせていただきまして、いろいろ御意見、御要望をいただいたところでございます。

今後も、本日御議論いただきました（仮称）小金井市気候市民会議をはじめまして、第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画等における温室効果ガス排出削減目標等について、様々御意見をいただきながら進めていきたいと思いますので、引き続き御協力いただきますようよろしくお願いできればと思います。どうもありがとうございました。

次回の審議会の日程等につきましては、新年度になりますけども、また、別途調整させていただきますので、どうぞよろしくお願いできればと思います。

事務局のほうからは以上となります。ありがとうございました。

池上会長　ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

それでは、以上をもちまして本日の議事全て終了となりましたので、これをもって、令和５年度第４回小金井市環境審議会の会議を閉会いたします。ありがとうございました。

―― 了 ――